

# 令和4年度全国農業大学校等プロジェクト発表要旨

農業大学校名 鳥取県立農業大学校 学科名 農業経営学科 学年 2年 氏名 なかじま きさら 中島 貴紗 蘭

## 1. 課題名 中玉トマト生産における余裕のある農業経営を目指して

## 2. 課題設定の理由

私が就農を予定しているトマト農家の親戚は高齢になり、体力面で今後に不安を抱えている。そこで、作業時間を短縮し余裕のある農業経営が出来ないかと考えた。本試験では今まで親戚がやってきたトマト+後作（チンゲンサイ）という作型ではなく、トマトの長期栽培によりこれまでと同等の所得が得られるか検討する。また着果促進のために行うホルモン処理が不要な単為結果性品種‘エコスマイル’の活用によって作業時間が短縮可能か検討する。

## 3. 実施方法

8月末までトマトを栽培し、後作でチンゲンサイを栽培する慣行栽培と、10月末までトマトの栽培期間を延長する長期栽培について比較検討をした。また品種

表1 試験区の設定

区名	栽培期間		品種	ホルモン処理
8月フル[慣行]	【トマト】	【チンゲンサイ】	フルティカ	有
8月エコ	3月下旬～8月末	10月～翌3月	エコスマイル	無
10月フル	【トマト】		フルティカ	有
10月エコ	3月下旬～10月末		エコスマイル	無

※試験規模：【トマト】1区5株×2反復 計10株 【チンゲンサイ】1区1㎡×2反復 計2㎡

についても慣行品種の‘フルティカ’とは別に単為結果性品種の‘エコスマイル’を用いて労働時間と収益性の調査をした。

## 4. 結果

- (1) 草丈は‘フルティカ’が高かった。
- (2) 総収量は8月末、10月末時点共に‘フルティカ’が高かった。糖度は‘エコスマイル’が高く、可販率も‘エコスマイル’が95%以上と高かった。
- (3) 労働時間はホルモン処理・チンゲンサイ生産に要する時間を無くしたため、8月フル区と比べてどの区も改善が見られた。特に10月エコ区が最も短くなった。
- (4) どちらの品種でも長期栽培することで所得は同等以上であった。時間当たり所得はすべての処理区で同等以上であり、特に長期栽培では1,500円以上と優れていた。
- (5) 以上のことから、10月エコ区において最も労働時間が短縮され、8月フル区[慣行区]と同等以上の所得及び時間当たり所得を得ることが出来たため、本試験においては作業時間短縮により余裕のある農業経営が可能な‘エコスマイル’の長期栽培が有望だと考えられる。

## 5. 考察

エコスマイルの長期栽培は、作業時間が短縮される上、これまでの栽培体系と同等以上の所得及び時間当たり所得を得ることが可能と考える。これは、チンゲンサイがトマトと比較し、年間を通して面積当たりの所得が低いこと、8月からトマトの単価が上昇し、慣行では栽培が終了している9月以降も高単価が維持されているためと考えられる。今後の課題として、肥料切れによる樹勢低下と高温期の着果不良が挙げられる。そのため、エコスマイルに適した肥培管理と高温期のホルモン処理を行い更なる所得増加を目指し、より余裕のある農業経営をしていきたい。就農後はまずエコスマイルの長期栽培を取り入れ、チンゲンサイに代わる作目の模索や余裕を生み出せるやり方を見つけていき、将来はエコスマイルを含むトマトの観光農園を開きたい。そして、きついだけではない農業の魅力の発信と地域の活性化を目指して農業大学校での学びを生かし尽力していきたい。